



年上のダメ同僚

● 同僚のことで相談します。年齢の上では相当先輩なのですが、仕事に対する向上心がなく、いつも自分が楽することばかり考えています。患者さんの名前は全然覚えようとせず、同じ失敗を繰り返しては院長に怒られているのですが、子どもじみた言い訳ばかりして周囲を困らせています。僕も彼にいろいろ注意するのですが、聞いちゃいない。これからどうやって付き合っていけばよいのでしょうか。(Pさん=20代・男性)

今週のお助け人

きえ りゅうしょう
帰依 龍照さん

コザ真宗寺(旧コザ本願寺)住職。琉球大学仏教研究会会長。趣味は、見た目に合わせた大型バイクと、見た目に合わない熱帯魚飼育。自分の存在そのものが、人々の癒やしであれば…と日々願う。座右の言は「恩は石に刻み 怨みは水に流せ」。

Pさんの気持ち、とても良く理解できますよ。わたしも修業中は、同僚がすべて大先輩方でありました。年齢から考えると先輩・後輩の関係がありますし、礼儀作法の立場から目上の方を敬うことは、必要なことであると思います。

しかし、どの職業・専門分野でも、単に年上だからといって全てを任せるわけにはいかないでしょう。特にPさんのご職業が人命にかかわる医療関係でしたら、それが顕著であるように感じます。

わたし自身のことですが、沖縄県内では超若手の寺院責任者・住職という立場です。六十代、八十代でも、いろいろな事情から任職に就任できない僧侶の先輩方がたくさんおられます。各種試験の対策や作法等の指導は、

年齢を考えていてはできるものではなく、「立场上、失礼します」と、毅然と担当させていただいています。重要な会議のときも、先輩たちの中で「失礼させていただき、一言申し上げます」などと遠慮なく発言もしています。でも一歩、専門分野の話題や会議等を離れたときには「ナラチ キミソーリヨサイ(教えてください)」と、逆にご指導を仰ぎます。

“できない”を前提にした付き合い

Pさん、ご存じのように人間はおのの価値観があり、必ずしも相手が自分と同じ目標に向かって歩んでいるとは限りませんね。この同僚の方も、医療に携わる以上は、彼なりの目標があるのではないのでしょうか？

それが何であるかは、知る由もありませんが…。

そこでわたしなりのアドバイスなのですが、”できる”ということを前提としてこの彼と付き合いしていくと、Pさんのお悩みもどんどん増してしまわれるでしょうから、思い切った”できない”ということを前提としてお付き合いされてみてはいかがですか？

お参りの現場でわたしは、ご供養のお手伝いを小さな子どもたちにお願ひしています。その時「なんで、こんなこともできないの？」と、大人の方が子どもたちをしかる場面を見受けることがあります。この大人の方は”できる”ことを前提として、子どもたちと接するので、失敗することを大きく受け止めてあげられないのかもしれない。誰だって最初から”できる”人なんていないですよのね…あつ、たまにはいますか？

”できない”ことを前提とする、失敗や言い訳に関して、不思議と寛容になれます。子ども

たちもノビノビと、自由にお手伝ひしてくれ始めます。自分の心のあり方一つで、周辺の状況は一変していくものです。で、何かの弾みで”できる”結果になったときには「スゴイ！」なんて褒めることができるのも、ある意味”できない”が前提となっているからなのかもしれません。

わたしは師匠から、多くのチャンスや役職をいただき、その今日があると感謝しています。Pさん、どうかこの彼に、注意ではなく”できない”ことを前提として、何か自信のつく仕事を担当させてあげたらいかがでしょうか？、役柄・役職が人間をつくりあげる”こんな格言を聞いたこともありますので、もしよろしければ、ご参照ください。

自分自身の悩み・対人の悩み・恋の悩み・ヘンな悩み・大きな悩み・小さな悩み…そんな心の悩みにアドバイザーがお答えします。相談内容を編集部へお送りください(短縮の場合あり・匿名可・秘密厳守)。採用分には記念品を差し上げます。



もっと高いところへ！ アタシこうやって己を鍛えているの。間違っても「降りられないの？」だなんて聞かないでちょうだい！ ニャー！ 那覇市にて。(豊見城市・公)